

8 植物

8.1 調査

1) 調査項目

調査項目は表 10.8.1-1 に示すとおりである。

表 10.8.1-1 調査項目

調査項目	
植物相の状況	・ 生育及び植物相の特徴
植生の状況	・ 植物群落の分布、組成及び構造
保全すべき種の状況	・ 埼玉県レッドデータブック及び環境省レッドリスト掲載種、学術上重要な種、地域住民の生活に密接に関わる種、その他の保全が必要な種等の保全すべき種の分布及び個体数 ・ 大径木の樹種、分布確認 ・ 生育環境
緑の量	・ 緑被率または緑視率の把握
その他の予測・評価に必要な事項	・ 広域的な植物相及び植物分布の状況 ・ 過去の植物相の変遷 ・ 地域住民その他の人との関わり状況

2) 調査方法

(1) 既存資料調査

既存資料調査は、表10.8.1-2に示す資料について収集、整理した。

表10.8.1-2 調査方法（既存資料調査）

調査項目	収集資料
植物相 植物群落 大径木	下記資料を調査し、植物相の状況等を把握した。 ・ 「埼玉県レッドデータブック植物編2024（第4版）（埼玉県、2024年）」 ・ 「上尾市植物動物調査報告書（上尾市、平成3年3月）」 ・ 「伊奈町史資料調査報告書 第九集 伊奈の植物Ⅰ（伊奈町史編集室）」 ・ 「伊奈町史資料調査報告書 第十集 伊奈の植物Ⅱ（伊奈町史編集室）」 ・ 「伊奈町史 別編 伊奈の植物 補遺編（伊奈町教育委員会）」 ・ 「第6回 自然環境保全基礎調査 巨木・巨木林（環境省HP）」
生育環境の状況	生育環境との関わりについては文献等を参考にして明らかにした。
緑の量 ・ 緑被率 ・ 緑視率	・ 緑被率：植生調査結果及び空中写真判読等により、緑被の区分ごとの分布を把握した。 ・ 緑視率：写真撮影を行い、画面上の緑の割合を計測した。
その他の関連事項 ・ 広域的な植物相及び分布の状況 ・ 過去の植物相の変遷 ・ 地域住民その他の人との関わりの状況	・ 既存資料調査、現地調査結果から総合的に考察した。また、必要に応じて地域時住民からの聴き取りによった。

(2) 現地調査

植物相、植生、保存すべき種の状況に係る現地調査方法等について、表10.8.1-3 に示す。

調査範囲及び地点は、対象事業実施区域及びその境界から概ね200m程度の範囲及び原市沼川（魚類、底生動物の調査地点付近）とした（図10.8.1-1参照）。また、調査時期及び調査日程は表10.8.1-3 に示すとおりとした。

表10.8.1-3 (1/2) 調査方法（現地調査）

区分	調査項目	調査方法
植物相の状況	植物相 大径木	調査範囲内を踏査し、目視観察により確認した植物の種名、位置等を記録した。
植生の状況	植物群落	<ul style="list-style-type: none"> ・現存植生：植物社会学的手法（ブラウンプランケの全推定法）に基づき植生調査を行い、調査範囲の群落単位を決定して植物社会学的な位置づけを明らかにするとともに、航空写真等を参考として現存植生図を作成した。 ・群落構造：代表的な植物群落ごとに調査区を設定し、調査区内の植物の種類、高さ、胸高直径等を調査し、種構成、階層構造を模式的に図化した群落構造図を作成するとともに、植物群落の現況や将来的な遷移の方向性を把握した。 ・潜在自然植生：代償植生の中に局所的に残存している自然植生（二次林の林床に生育する自然構成種の芽生え・残存木等）の分布と立地条件を確認した。また、最新の既存文献により、調査範囲の潜在自然植生の概要を把握し、資料調査と現地調査の結果から、調査範囲の潜在自然植生図を作成した。
保全すべき種の状況	保全すべき種、 群落の分布、 生育の状況	保全すべき種及び植物群落の確認地点、生育密度、生育状況を明らかにした。

表10.8.1-3 (2/2) 調査日程


調査項目	調査時期			
	早春季	春季	夏季	秋季
植物相	令和7年3月17日～18日 4月17日～19日	令和7年5月19日～21日	令和7年7月2日～4日	令和7年11月10日～12日
植生	現存植生	—	—	令和7年11月10日～12日
	群落構造	—	令和7年5月20日	令和7年11月10日～12日
	潜在自然植生	—	—	令和7年11月10日～12日


保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域

 : 調査範囲

 : 市町界

 : 原市沼川

 : 側溝、旧水路、水路



S = 1:10,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.8.1-1 (1/2) 植物調査範囲

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例



: 対象事業実施区域



: 調査範囲

----- : 市町界



: 原市沼川

— : 側溝、旧水路、
水路



: st. 1~22



S = 1:10,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.8.1-1 (2/2) 植生調査地点

3) 調査結果

(1) 植物相の状況

① 既存資料調査

植物相の状況に係る調査結果は、「第3章 地域特性の把握、2 自然的状況、2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況、3) 重要な植物相の状況 (p. 3-105)」に示すとおりである。

② 現地調査

ア 植物相

植物相調査の結果、確認された種子植物及びシダ植物は合計 105 科 376 種であった。分類群ごとの確認状況を表 10.8.1-4 に、確認された種を表 10.8.1-5 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は大宮台地に位置し、畑や水田等の耕作地が多く、対象事業実施区域の西側から南側には敷地境界に接して原市沼川が流れる。

対象事業実施区域内は畑や果樹園が多く、そうした耕作地の周辺ではホトケノザ、ナズナ、エノキグサ、クワクサ、イヌビエ、メヒシバ、ザクロソウ等の一年生の畑地雑草が多く見られた。耕作地の周辺では利用頻度が低下し、藪化した樹林が所々で見られ、アカメガシワ、ヌルデ、ミズキ、ヤマグワ等の先駆的な木本種やクズ、ヤブマメ、カナムグラ、ヤブカラシ等のつる植物が多く見られた。

原市沼川周辺では、早春季から春季にスズメノテッポウ、コオニタビラコ、ムシクサ等の春型の雑草が、夏季から秋季にタマガヤツリ、アゼガヤツリ、アゼナ、オモダカ等の秋型の雑草が多く見られた。調査範囲の東端にはコナラ、ケヤキ、アカシデ、イヌシデ等の落葉広葉樹やアラカシ、シラカシ等の常緑樹のほか、モウソウチク、スギ、ヒノキ等が見られる伊奈町保存樹林があり、林床にはホウチャクソウ、ヤブミョウガ、ヤブコウジ、イヌツゲ、コゴメウツギ等の森林性の種群が見られた。遊休農地や路傍では、オオブタクサ、コセンダングサ、セイバンモロコシ、ナギナタガヤ、セリバヒエンソウ、アメリカスミレサイシン、ユウゲショウ、アレチギンギシ、ゴウシュウアリタソウ、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク等の外来種が多く見られた。

表 10.8.1-4 植物分類群ごとの確認科種数

分類群			対象事業実施区域						総合		
			内			外					
			科数	種数	割合 (%)	科数	種数	割合 (%)	科数	種数	割合 (%)
シダ植物			4	4	2.0	7	14	4.1	7	14	3.7
種子植物	裸子植物		1	1	0.5	4	5	1.5	4	5	1.3
	被子植物	双子葉類	50	149	74.5	67	223	65.2	68	250	66.5
		その他	3	3	1.5	5	7	2.0	5	7	1.9
	単子葉類		10	43	21.5	21	93	27.2	21	100	26.6
合計			68	200	100.0	104	342	100.0	105	376	100.0

表10.8.1-5 (1/5) 確認された植物

No	目名	科名	種名	学名	対象事業実施区域		確認時期				備考
					内	外	早春	春	夏	秋	
1	トクサ	トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	●	●	●	●	●	●	
2	ハナヤスリ	ハナヤスリ	フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i> var. <i>ternatum</i>		●					
3	ウラボシ	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>		●					
4			イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	●	●			●	●	
5		ヒメシダ	ヒメワラビ	<i>Macrothelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>	●	●			●	●	
6			ミドリヒメワラビ	<i>Macrothelypteris viridifrons</i>		●				●	
7			ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>		●				●	
8		コウヤワラビ	クサソテツ	<i>Onoclea struthiopteris</i>		●				●	
9		メシダ	イヌワラビ	<i>Anisocampium niponicum</i>	●	●	●	●	●	●	
10			シケシダ	<i>Deparia japonica</i>		●			●	●	
11		オシダ	ナガバヤブソテツ	<i>Cyrtomium devexiscapulae</i>		●				●	
12			ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>fortunei</i>		●			●	●	
13			テリハヤブソテツ	<i>Cyrtomium laetevirens</i>		●				●	
14			ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>		●				●	
15	イチョウ	イチョウ	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>		●	●	●	●	●	
16	マツ	マツ	モミ	<i>Abies firma</i>		●				●	
17	ナンヨウスギ	マキ	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>		●				●	
18	ヒノキ	ヒノキ	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	●	●	●	●	●	●	
19			スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> var. <i>japonica</i>		●				●	
20	スイレン	スイレン	コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>		●	●	●	●	●	
21	シキミ	マツブサ	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>		●				●	
22			サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>		●				●	
23	コショウ	ドクダミ	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	●	●	●	●	●	●	
24	モクレン	モクレン	コブシ	<i>Magnolia kobus</i>	●	●	●	●	●	●	
25	クスノキ	クスノキ	ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum yabunikkei</i>		●				●	逸出
26			シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>sericea</i>	●	●	●	●	●	●	
27	ショウブ	ショウブ	ショウブ	<i>Acorus calamus</i>		●				●	
28	オモダカ	サトイモ	アオウキクサ	<i>Lemna aoukikusa</i> ssp. <i>aoukikusa</i>		●				●	
29			カラスビシヤク	<i>Pinellia ternata</i>		●		●			
30			ウキクサ	<i>Spirodela polyrrhiza</i>		●				●	
31		オモダカ	ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i>		●				●	
32			オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>		●				●	
33		トチカガミ	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>		●	●	●	●	●	
34		ヒルムシロ	エビモ	<i>Potamogeton crispus</i>		●	●	●	●	●	
35	ヤマノイモ	ヤマノイモ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	●	●	●	●	●	●	
36			ナガイモ	<i>Dioscorea polystachya</i>	●	●				●	
37	ユリ	イヌサフラン	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>		●	●	●	●	●	
38		ユリ	ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i>		●	●	●	●	●	
39	クサスギカズラ	ラン	シラン	<i>Bletilla striata</i>		●		●			植栽
40			シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>		●		●		●	
41			ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	●	●				●	
42		アヤメ	ヒメヒオウギズイセン	<i>Crococsmia x crocosmiiflora</i>		●				●	
43			キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		●	●	●	●	●	
44			ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>		●		●			
45		ススキノキ	ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>		●				●	
46		ヒガンバナ	ノビル	<i>Allium macrostemon</i>	●	●	●	●	●	●	
47			スノードロップ	<i>Galanthus nivalis</i>		●				●	
48			ハナニラ	<i>Ipheion uniflorum</i>	●	●	●	●	●	●	
49			ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>		●			●		
50			スイセン	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>	●	●	●	●	●	●	
51		クサスギカズラ	ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>		●		●			
52			ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>	●	●	●	●	●	●	
53			ムスカリ	<i>Muscari neglectum</i>		●		●			
54			ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>		●				●	
55			ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>	●	●	●	●	●	●	
56			オオバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i>		●				●	
57			オモト	<i>Rohdea japonica</i>		●	●	●	●	●	
58	ヤシ	ヤシ	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	●	●	●	●	●	●	
59	ツユクサ	ツユクサ	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>		●				●	
60			ツユクサ	<i>Commelina communis</i> var. <i>communis</i>	●	●	●	●	●	●	
61			イボクサ	<i>Murdannia keisak</i>	●	●	●	●	●	●	
62			ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>		●				●	
63			ムラサキツユクサ	<i>Tradescantia ohimensis</i>	●	●	●	●	●	●	
64		ミスアオイ	コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i>		●				●	
65	ショウガ	ショウガ	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>		●				●	植栽
66	イネ	ガマ	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>		●	●	●	●	●	
67			ヒメガマ	<i>Typha domingensis</i>		●				●	
68			ガマ属	<i>Typha</i> sp.	●					●	
69		イグサ	イグサ	<i>Juncus decipiens</i>	●		●				
70			クサイ	<i>Juncus tenuis</i>		●		●		●	
71		カヤツリグサ	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> ssp. <i>yagara</i>	●	●	●	●	●	●	
72			アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>	●	●	●	●	●	●	
73			ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>		●				●	
74			ヤワラスゲ	<i>Carex transversa</i>		●			●		
75			ヒメクク	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leirolepis</i>		●				●	
76			タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>	●	●	●	●	●	●	
77			アゼガヤツリ	<i>Cyperus flavidus</i>		●				●	
78			コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>	●	●	●	●	●	●	
79			カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>		●				●	
80			カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i>		●				●	
81			クログワイ	<i>Eleocharis kuroguwai</i>		●				●	
82			ヒデリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i>	●	●	●	●	●	●	
83			イヌホタルイ	<i>Schoenoplectiella juncooides</i>		●				●	
84			フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>	●	●	●	●	●	●	

注：分類・種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2025年11月27日）に従った。

表10.8.1-5 (2/5) 確認された植物

No	目名	科名	種名	学名	対象事業実施区域		確認時期				備考			
					内	外	早春	春	夏	秋				
84	イネ	イネ	スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i> var. <i>amurensis</i>	●	●	●	●						
85			メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		●					●			
86			カラスムギ	<i>Avena fatua</i>	●				●					
87			カズノコグサ	<i>Beckmannia syzigachne</i>		●			●					
88			コバンソウ	<i>Briza maxima</i>		●			●					
89			イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>	●	●	●	●	●	●				
90			ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha</i> var. <i>brachytricha</i>		●						●		
91			ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>	●	●			●	●	●			
92			カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>		●		●	●					
93			メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	●	●				●	●			
94			アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>		●					●			
95			イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>	●	●				●	●			
96			オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>	●	●				●	●			
97			アオカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i>	●	●			●					
98			カモジグサ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>	●	●			●	●	●			
99			カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>		●						●		
100			コスズメガヤ	<i>Eragrostis minor</i>		●				●				
101			ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>		●						●		
102			チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	●	●	●	●	●	●	●			
103			アゼガヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>		●						●		
104			ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>	●	●			●					
105			ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>	●	●				●				
-			ネズミムギ属	<i>Lolium</i> sp.		●						●		
106			アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>		●						●		
107			オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>	●	●			●	●	●			
108			コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>		●						●		
109			ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>undulatifolius</i>	●	●						●		
110			ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>	●	●						●		
111			シマズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	●	●				●				
112			スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>		●						●		
113			チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>		●						●		
114			クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	●	●				●	●			
115			ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	●	●			●	●	●			
116			モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i>		●	●	●	●	●	●			
117			マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i>		●	●	●	●	●	●			
118			アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>	●	●			●	●	●			
119			スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>		●	●	●				●		
120			オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>	●	●	●	●						
121			オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>		●	●	●						
122			アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	●	●				●	●			
123			エノコログサ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i>	●	●				●	●			
124			セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum</i>		●				●	●			
125			ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>	●	●	●	●						
126			シバ	<i>Zoysia japonica</i>		●				●	●			
127			キンボウゲ	ケシ	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i> ssp. <i>asiaticum</i>	●	●	●	●	●	●		
128					ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>		●	●	●				
129					ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>	●	●	●	●				
130				アケビ	アケビ	<i>Akebia quinata</i>		●	●	●			●	
131					ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> ssp. <i>trifoliata</i>		●			●	●		
132				ツツラフジ	アオツツラフジ	●	●				●			
133				メギ	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>		●			●	●	●	
134					ナンテン	<i>Nandina domestica</i>		●	●	●	●	●		
135					キンボウゲ	セリバヒエンソウ	●	●	●	●				
136					ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>		●		●				
137				タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>		●	●				●		
138			ユキノシタ	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i> var. <i>macropodum</i>		●	●	●	●				
139				ペンケイソウ	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>		●	●	●				
140			ブドウ	ブドウ	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	●	●	●	●	●	●		
141					ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	●	●	●	●	●	●		
142					ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	●	●	●	●	●	●		
143			マメ	マメ	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>		●		●	●	●		
144					ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>	●	●			●	●	●	
145					アメリカホド	<i>Apios americana</i>		●				●		
146					アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	●	●				●		
147					ツルマメ	<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>	●	●			●			
148					ヤブハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>mandshuricum</i>		●						●
149					クス	<i>Pueraria lobata</i> ssp. <i>lobata</i>	●	●			●	●	●	
150					コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	●				●			
151					ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>		●			●	●	●	
152					シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	●	●	●	●	●	●	●	
153					スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	●	●			●			
154					ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> ssp. <i>nigra</i>	●	●			●			●
155					ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>varia</i>	●	●			●	●		
156					ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>	●	●						●
157					フジ	<i>Wisteria floribunda</i>		●			●	●	●	

注：分類・種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2025年11月27日）に従った。

表10.8.1-5 (3/5) 確認された植物

No	目名	科名	種名	学名	対象事業実施区域		確認時期				備考
					内	外	早春季	春季	夏季	秋季	
158	バラ	ニレ	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	●	●	●	●	●	●	
159		アサ	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	●	●	●	●	●	●	
160			エノキ	<i>Celtis sinensis</i>	●	●	●	●	●	●	
161			カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>	●	●	●	●	●	●	
162		クワ	クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>	●	●	●	●	●	●	
163			ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	●	●	●	●	●	●	
164		イラクサ	アオミズ	<i>Pilea pumila</i>	●	●	●	●	●	●	
165	バラ		エドヒガン	<i>Cerasus itosakura f. ascendens</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
166			ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	●	●	●	●	●	●	
167			コゴメウツギ	<i>Neillia incisa</i>	●	●	●	●	●	●	
168			ウワミズザクラ	<i>Padus grayana</i>	●	●	●	●	●	●	
169			ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>	●	●	●	●	●	●	
170			オキジムシロ	<i>Potentilla supina</i>	●	●	●	●	●	●	
171			ウメ	<i>Prunus mume</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
172			モモ	<i>Prunus persica</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
173			シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
174			ノイバラ	<i>Rosa multiflora var. multiflora</i>	●	●	●	●	●	●	
175	ブナ	ブナ	クリ	<i>Castanea crenata</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
176			スタジイ	<i>Castanopsis sieboldii ssp. sieboldii</i>	●	●	●	●	●	●	
177			クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	●	●	●	●	●	●	
178			アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	●	●	●	●	●	●	
179			シラカシ	<i>Quercus myrsinifolia</i>	●	●	●	●	●	●	
180			コナラ	<i>Quercus serrata ssp. serrata var. serrata</i>	●	●	●	●	●	●	
181		カバノキ	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	●	●	●	●	●	●	
182			アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>	●	●	●	●	●	●	
183			イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	●	●	●	●	●	●	
184	ウリ	ウリ	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum var. pentaphyllum</i>	●	●	●	●	●	●	
185			アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	●	●	●	●	●	●	
186			カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	●	●	●	●	●	●	
187	ニシキギ	ニシキギ	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus var. orbiculatus</i>	●	●	●	●	●	●	
188			コマユミ	<i>Euonymus alatus f. ciliatodentatus</i>	●	●	●	●	●	●	
189			マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	
190			マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	●	●	●	●	●	●	
191	カタバミ	カタバミ	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>	●	●	●	●	●	●	
192			カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	●	●	●	●	●	●	
193			ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	●	●	●	●	●	●	
194			オッタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>	●	●	●	●	●	●	
195	キントラノオ	トウダイグサ	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>	●	●	●	●	●	●	
196			コニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>	●	●	●	●	●	●	
197			オオニシキソウ	<i>Euphorbia nutans</i>	●	●	●	●	●	●	
198			ハイニシキソウ	<i>Euphorbia prostrata</i>	●	●	●	●	●	●	
199			アレチニシキソウ	<i>Euphorbia sp.</i>	●	●	●	●	●	●	
200			アカメガンショ	<i>Mallotus japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	
201		ヤナギ	シダレヤナギ	<i>Salix babylonica</i>	●	●	●	●	●	●	
202			マルバヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>	●	●	●	●	●	●	
203		スマレ	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras var. grypoceras</i>	●	●	●	●	●	●	
204			スミレ	<i>Viola mandshurica var. mandshurica</i>	●	●	●	●	●	●	
205			アメリカスミレサイシン	<i>Viola sororia</i>	●	●	●	●	●	●	
206			ツボスミレ	<i>Viola verecunda var. verecunda</i>	●	●	●	●	●	●	
207	フウロソウ	フウロソウ	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>	●	●	●	●	●	●	
208	フトモモ	ミソハギ	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i>	●	●	●	●	●	●	
209			サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
210			ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>	●	●	●	●	●	●	
211			キカシグサ	<i>Rotala indica</i>	●	●	●	●	●	●	
212		アカバナ	チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides ssp. epilobioides</i>	●	●	●	●	●	●	
213			ウスゲチョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides ssp. greatrexii</i>	●	●	●	●	●	●	
214			コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	●	●	●	●	●	●	
215			ユウゲショウ	<i>Oenothera rosea</i>	●	●	●	●	●	●	
216			ヒルガキツキミソウ	<i>Oenothera speciosa var. speciosa</i>	●	●	●	●	●	●	
217			マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i>	●	●	●	●	●	●	
218	ミツバウツギ	ミツバウツギ	ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>	●	●	●	●	●	●	
219	ムクロジ	ウルシ	スルデ	<i>Rhus javanica var. chinensis</i>	●	●	●	●	●	●	植栽
220			ムクロジ	<i>Acer palmatum</i>	●	●	●	●	●	●	
221			サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	●	●	●	●	●	●	
222			ニガキ	<i>Ailanthus altissima</i>	●	●	●	●	●	●	
223		センダン	センダン	<i>Melia azedarach</i>	●	●	●	●	●	●	
224	アオイ	アオイ	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>	●	●	●	●	●	●	
225	アブラナ	アブラナ	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	●	●	●	●	●	●	
226			ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>	●	●	●	●	●	●	
227			タネツケバナ	<i>Cardamine occulta</i>	●	●	●	●	●	●	
228			イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>	●	●	●	●	●	●	
229			ショカツサイ	<i>Orychophragmus violaceus var. violaceus</i>	●	●	●	●	●	●	
230			コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	●	●	●	●	●	●	
231			イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	●	●	●	●	●	●	
232			スカシタゴボウ	<i>Rorippa palustris</i>	●	●	●	●	●	●	

注：分類・種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2025年11月27日）に従った。

表10.8.1-5 (4/5) 確認された植物

No	目名	科名	種名	学名	対象事業実施区域		確認時期				備考	
					内	外	早春季	春季	夏季	秋季		
233	ナデシコ	タデ	ジャクチリソバ	<i>Fagopyrum dibotrys</i>		●		●	●			
234			ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>		●		●	●	●		
235			ミズヒキ	<i>Persicaria filiformis</i>		●			●	●		
236			オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>lapathifolia</i>		●			●	●		
237			イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>		●			●	●		
238			サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>		●			●	●		
239			ヤノネグサ	<i>Persicaria muricata</i>		●			●	●		
240			シンミズヒキ	<i>Persicaria neofiliformis</i>		●			●	●		
241			イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i>		●			●	●		
242			ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i> f. <i>aestiva</i>		●			●	●		
243			ミソソバ	<i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>		●			●	●		
244			ハイミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> ssp. <i>depressum</i>		●			●	●		
245			スイバ	<i>Rumex acetosa</i>		●		●	●	●		
246			アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>		●		●	●	●		
247			ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>		●		●	●	●		
248			エゾノギシギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		●			●	●		
249			ナデシコ		ノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>serpyllifolia</i>		●		●	●	
250					ミミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> ssp. <i>vulgare</i> var. <i>angustifolium</i>		●		●	●	
251					オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>		●		●	●	
252					ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>		●			●	●
253					ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>		●		●	●	●
254					コハコベ	<i>Stellaria media</i>		●		●	●	●
255					ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>		●		●	●	●
256					ノミノフスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> var. <i>undulata</i>		●		●	●	●
257	ヒユ				イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>		●		●	●	
258					ヒナタイノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>		●			●	●
259			ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>		●			●	●		
260			ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>		●			●	●		
261	シロザ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>album</i>		●			●	●				
262	ゴウシュウアリタソウ	<i>Dysphania pumilio</i>		●			●	●				
263	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>		●		●	●				
264	オシロイバナ	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>		●		●	●				
265	ザクロソウ	クルマバザクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>		●		●	●				
266		ザクロソウ	<i>Trigastrotheca stricta</i>		●		●	●				
267	スベリヒユ	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>		●		●	●				
268	ミズキ	ミズキ	ミズキ	<i>Cornus controversa</i> var. <i>controversa</i>		●		●	●			
269			ハナミズキ	<i>Cornus florida</i>		●					植栽	
270			ヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> ssp. <i>kousa</i>		●					植栽	
271			クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>		●			●			
272			ウツギ	<i>Deutzia crenata</i> var. <i>crenata</i>		●			●	●		
273	ツツジ	サカキ	サカキ	<i>Cleyera japonica</i>		●		●	●			
274			ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>		●		●	●			
275			モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>		●			●	●		
276		カキノキ	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>kaki</i>		●		●	●	逸出		
277		サクラソウ		マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>		●		●	●		
278				ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i> var. <i>japonica</i>		●		●	●		
279				コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>		●		●	●		
280		ツバキ		ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>		●		●	●		
281				サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>		●					植栽
282				チャノキ	<i>Camellia sinensis</i> var. <i>sinensis</i>		●		●	●	●	逸出
283	エゴノキ	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>		●		●	●	●			
284	ツツジ	ツツジ (園芸品種)	<i>Rhododendron</i> cvs.		●		●	●	●	植栽		
285	アオキ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i> var. <i>japonica</i>		●		●	●	●			
286	リンドウ	アカネ	ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>		●		●	●			
287			ヘクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>		●		●	●	●		
288			ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>		●		●	●			
289			テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>		●		●	●			
290	ナス	ヒルガオ	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>		●		●	●			
291			マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>		●			●	●		
292		ナス		クコ	<i>Lycium chinense</i>		●		●	●		
293				ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>		●			●	●	
294				オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>		●			●	●	
295			イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>		●		●	●			
296	ムラサキ	ムラサキ	ハナイバナ	<i>Bothriospermum zerlanicum</i>		●		●	●			
297			キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>		●		●	●			
298	シソ	モクセイ	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>		●		●	●			
299			トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>		●			●	●		
300			イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> ssp. <i>obtusifolium</i>		●		●	●	●		
301			キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>		●		●	●	●	植栽	
302			ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>		●		●	●	●		
303	オオバコ		ミズハコベ	<i>Callitriche palustris</i>		●		●	●			
304			アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i>		●			●	●		
305			オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>		●		●	●	●		
306			ハラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>		●			●	●		
307			ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>		●		●	●	●		
308			オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>		●		●	●	●		
309			タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>		●		●	●	●		
310			ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>		●		●	●	●		
311			オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>		●		●	●	●		
312			カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>		●			●	●		
313	アゼナ		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> ssp. <i>major</i>		●		●	●			
314			アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>		●			●	●		
315			ウリクサ	<i>Torenia crustacea</i>		●			●	●		

注：分類・種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2025年11月27日）に従った。

表10.8.1-5 (5/5) 確認された植物

No	目名	科名	種名	学名	対象事業実施区域		確認時期				備考	
					内	外	早春季	春季	夏季	秋季		
316	シソ	シソ	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>	●	●			●	●		
317			ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica var. japonica</i>		●			●	●		
318			クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	●	●	●	●	●	●		
319			カキドオシ	<i>Glechoma hederacea ssp. grandis</i>		●				●		
320			ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	●	●	●	●			●	
321			ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>	●	●	●				●	
322			ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>		●					●	
323			ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>		●				●		
324			サギゴケ	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	●	●	●	●	●	●	
325			キリ	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>		●				●	
326	キツネノマゴ	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens var. procumbens</i>		●			●				
327	モチノキ	モチノキ	イヌツゲ	<i>Ilex crenata var. crenata</i>		●	●	●	●			
328			モチノキ	<i>Ilex integra</i>		●				●		
329			クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>		●			●	●		
330			ウメモドキ	<i>Ilex serrata</i>		●			●			
331	キク	キキョウ	キキョウソウ	<i>Triodanis perfoliata</i>		●		●				
332		キク	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>	●	●		●	●	●		
333			ヨモギ	<i>Artemisia indica var. maximowiczii</i>	●	●		●	●	●		
334			カントウヨメナ	<i>Aster yomena var. dentatus</i>		●				●		
335			アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	●	●			●	●		
336			コシロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa var. minor</i>	●	●				●		
337			コセンダングサ	<i>Bidens pilosa var. pilosa</i>	●	●			●	●	●	
338			ヒレアザミ	<i>Carduus crispus</i>	●	●			●			
339			トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	●	●				●	●	
340			アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>	●	●				●		
341			アメリカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>		●				●	●	
342			タカサブロウ	<i>Eclipta thermalis</i>	●	●				●	●	
343			ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolius var. hieracifolius</i>		●				●	●	
344			ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	●	●			●	●	●	
345			アレチノギク	<i>Erigeron bonariensis</i>		●				●		
346			ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	●	●			●	●	●	
347			ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	●	●	●		●	●	●	
348			オオアレチノギク	<i>Erigeron sumatrensis</i>	●	●			●	●	●	
349			ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>	●	●			●	●	●	
350			ウラジロチチコグサ	<i>Gamochaeta coarctata</i>		●			●	●	●	
351			チチコグサモドキ	<i>Gamochaeta pensylvanica</i>	●	●			●	●	●	
352			キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		●				●		
353			キツネアザミ	<i>Hemisteptia lyrata</i>	●	●	●	●	●	●	●	
354			オオジシバリ	<i>Ixeris japonica</i>	●	●	●	●	●	●	●	
355			アキノノゲシ	<i>Lactuca indica var. indica</i>	●	●			●	●	●	
356			コオニタビラコ	<i>Lapsanastrum apogonoides</i>		●		●				
357			ヤブタビラコ	<i>Lapsanastrum humile</i>	●	●			●			
358			フキ	<i>Petasites japonicus var. japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	逸出
359			ハハコグサ	<i>Pseudognaphalium affine</i>	●	●	●	●	●	●	●	
360			アイセイダカハハコグサ	<i>Pseudognaphalium affine x P. luteoalbum</i>		●			●			
361			ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	●	●	●	●	●	●	●	
362			セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	●	●	●	●	●	●	●	
363			オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>	●	●	●	●	●	●	●	
364			ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	●	●	●	●	●	●	●	
365			セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	●	●	●	●	●	●	●	
366			カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum var. platycarpum</i>	●	●	●	●	●	●	●	
367			オニタビラコ(広義)	<i>Youngia japonica</i>	●	●	●	●	●	●	●	
368	セリ		ウコギ	ヤツデ	<i>Fatsia japonica var. japonica</i>		●	●	●	●	●	
369		キツタ		<i>Hedera rhombea</i>	●	●		●		●		
370		オオチドメ		<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	●	●				●		
371		チドメグサ		<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>		●					●	
372	セリ	セリ	セリ	<i>Oenanthe javanica ssp. javanica</i>	●	●	●	●	●	●		
373			オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>	●	●		●	●	●		
374	マツムシソウ	ガマズミ	ニワトコ	<i>Sambucus racemosa ssp. sieboldiana var. sieboldiana</i>		●	●	●	●	●		
375			ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>		●	●	●	●	●		
376			スイカズラ	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	●	●	●	●	●	●	
合計	49目	105科	376種	—	200種	343種	137種	205種	201種	256種	—	

注：分類・種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2025年11月27日）に従った。

イ 大径木

現地調査の結果、対象事業実施区域内において埼玉県環境影響評価技術指針で定義されている「地上約130cmで幹周150cm程度以上の樹木」は確認されなかった。

(2) 植生の状況

① 既存資料調査

現存植生及び群落構造に係る調査結果は、「第3章 地域特性の把握、2 自然的状況、2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況、2) 植生 (p. 3-103)」に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺における潜在自然植生について、「関東地方の潜在自然植生図(日本植生誌 関東、1986)」によると、平地では主にシラカシ群集が分布し、谷部や低地ではオニスゲ-ハンノキ群集が分布している。

② 現地調査

ア 現存植生

航空写真の判読及び現地踏査の結果から得られた資料を基に群落の区分を行い、植生図を作成した(図 10.8.1-2 参照)。

対象事業実施区域及びその周辺は荒川低地と中川低地の間に位置する大宮台地に位置し、起伏が少なく平坦である。対象事業実施区域及びその周辺の標高は14~18mであり、植物社会学的に定義されたクラス域^注ではヤブツバキクラス域に属する。また、大部分が耕作地として人為的改変等が行われてきた場所であり、現行の耕作地と農地としての利用頻度が低下したことによって遷移が進んだ草地や樹林がモザイク状に分布する。

対象事業実施区域及びその周辺は畑と果樹園が多く見られ、特に南側で畑、東側で果樹園が多く分布していた。畑や果樹園の周辺にはクズ群落、オオブタクサ群落、コセンダングサ群落等の乾性草地や先駆性二次林が多く分布していた。これらはいずれも農地としての利用頻度が低下したことに伴う遷移によって生じた群落であり、畑の種類や利用されていない年数により構成種が変化しているものと考えられる。

原市沼川周辺では、自然植生であるジャヤナギ-アカメヤナギ群集、ヨシ群落、オギ群集が分布していた。
調査範囲の東側に位置する伊奈町保存樹林周辺ではモウソウチク林とコナラ群落、シラカシ群集がまとまって分布しており、モウソウチク林周辺の群落にはモウソウチクが侵入している様子が見られた。また、この地域の自然植生の一つであるシラカシ群集は、屋敷林として対象事業実施区域周辺の住宅や墓地の近くに小面積ながら点在していた。

^注 広域に分布し景観を特徴づけている自然植生によって植物社会学的に定義されたもので、主要なクラスの生育域のことである。クラス域の分布は気温によって決定される。

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例  : 対象事業実施区域  : 調査範囲  : 市町界

〈植生区分〉

- | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------------|
| 常緑広葉樹林 | 湿性草地 | 乾性草地 |
| 1 シラカン群集 | 9 ヨシ群落 | 13 セイカアワダチソウ群落 |
| 落葉広葉樹林 | 10 オギ群落 | 14 チガヤ群落 |
| 2 ケヤキ群落 | 11 ウキヤガラ群落 | 15 アズマネササ群落 |
| 3 エノキ群落 | 12 ヤマトミクリ群落 | 16 クズ群落 |
| 4 コナラ群落 | 耕作地 | 17 オオブタクサ群落 |
| ジャヤナキ・アカメヤナキ群集 | 20 畑地 | 18 コセンダングサ群落 |
| 5 | 21 水田 | 19 ヒメムカシヨモギ群落 |
| 6 先駆性二次林 | 22 果樹園 | 人工地 |
| 植林 | 23 樹園地 | 25 人工裸地 |
| 7 スギ・ヒノキ植林 | 24 植栽樹林 | 26 人工構造物 |
| 8 モウソウチク林 | | 開放水面 |
| | | 27 開放水面 |



S = 1:10,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.8.1-2 現存植生図

イ 群落構造

現地調査の結果、調査範囲内では樹林で9地点、草地で13地点、合計22地点の群落組成調査資料が得られた。群落組成調査資料及び既存資料を参考に植生の区分を行った。その結果、調査地全体で19植生単位に区分された(畑や開放水面等を除く)。植生単位ごとの群落記載を以下に示す。

1. シラカシ群集

調査地点番号：st. 14

群落の相観：高木のシラカシが優占する常緑広葉樹林。

構造・組成：高木層、亜高木層、低木層、草本層の4層構造からなり、群落高は20m。高木層はシラカシのみで、亜高木層はスギ、アカシデが見られた。低木層はヒサカキ、シラカシ、ネズミモチ、シロダモ等の常緑樹が多く見られた。草本層はシュロ、ナガバジャノヒゲのほか、アズマネザサ、キツタ、ヤブコウジがわずかに見られる程度であった。出現種数は16種類であった。

立地・分布：調査範囲内では、ほとんどが対象事業実施区域外の住宅、墓地及び伊奈町保存樹林の周辺で小面積ながら点在していた。この地域の自然植生の一つであり、屋敷林として残存しているものと考えられる。



図 10.8.1-3 st. 14 の断面模式図 (左) と外観 (右)

2. ケヤキ群落

調査地点番号：st. 22

群落の相観：高木のケヤキが優占する落葉高木広葉樹林。

構造・組成：高木層、亜高木層、低木層、草本層の4層構造からなる。群落高は25m。高木層は胸高直径60cm程のケヤキが優占するほか、シラカシも混じっていた。亜高木層はモウソウチクのほか、スギやヒノキが混じっていた。低木層でもモウソウチクが見られ、草本層ではサネカズラが多く見られたほか、アズマネザサ、アオキ、ナガバジャノヒゲ、ムクノキ（実生）が見られた。出現種数は31種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外にある伊奈町保存樹林内の1箇所のみであった。



図 10.8.1-4 st. 22 の断面模式図（左）と外観（右）

3. エノキ群落

調査地点番号：st. 2

群落の相観：高木のエノキが優占する落葉広葉樹林。

構造・組成：高木層、低木層、草本層の3層からなる。群落高は17mで、高木層はエノキが優占していた。低木層はアカメガシワ、エノキ、ムクノキ、アズマネザサが多く見られたほか、チャノキ、ヤマグワ、ヌルデが見られた。草本層でもエノキ、ムクノキが多く見られたほか、ナガバジャノヒゲ、ノイバラ、クズ等が見られた。出現種数は29種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の畑や果樹園の近くに小面積の林分が分布していた。



図 10.8.1-5 st. 2 の断面模式図 (左) と外観 (右)

4. コナラ群落

調査地点番号：st. 12、st. 15

群落の相観：高木層にコナラが優占する落葉広葉樹林。

構造・組成：高木層、亜高木層、低木層、草本層の4層からなる。群落高は20m。高木層はコナラが優占していたほか、アカシデ (st. 12) やイヌシデ (st. 15) 等のシデ類が混生していた。亜高木層は st. 12 はモウソウチクが優占し、st. 15 はミズキやウワミズザクラ等が混じっていた。低木層はシラカシ、アオキ、シュロが多く見られた。草本層はアオキ、ナガバジャノヒゲのほか、つる植物のサネカズラやテイカカズラ等が多く見られた。出現種数は24～29種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外にある伊奈町保存樹林内にまとまって分布していた。



図 10.8.1-6 st. 15 の断面模式図 (左) と外観 (右)

5. ジャヤナギ-アカメヤナギ群集

調査地点番号：st. 9

群落の相観：マルバヤナギが優占する落葉広葉樹林。

構造・組成：亜高木層、草本層の2層からなる。群落高は8m。亜高木層はマルバヤナギのみが優占していた。草本層は湿生植物のヨシ、アオミズ、ミゾソバ、ヤノネグサ、セリ等が多く見られた。出現種数は18種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外にある原市沼川の右岸側の低地に生育していた。



図 10.8.1-7 st. 9 の断面模式図 (左) と外観 (右)

6. 先駆性二次林

調査地点番号：st. 5

群落の相観：先駆的な樹種が優占する落葉広葉樹林。

構造・組成：高木層、低木層、草本層の3層からなる。群落高は10m。高木層は外来種のニワウルシが優占していたほか、クズが見られた。低木層はアカメガシワが優占していたほか、つる植物のカナムグラ、ヤブカラシ、クズ等が多く見られた。草本層はシュロ、ケチヂミザサが優占していたほか、エノキ、ムクノキ、アカメガシワ等の稚樹や実生が見られた。出現種数は25種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の畑や果樹園の近く、原市沼川の川沿いに分布していた。耕作地の利用頻度の低下に伴い先駆的な樹種が侵入して生じた群落と考えられる。

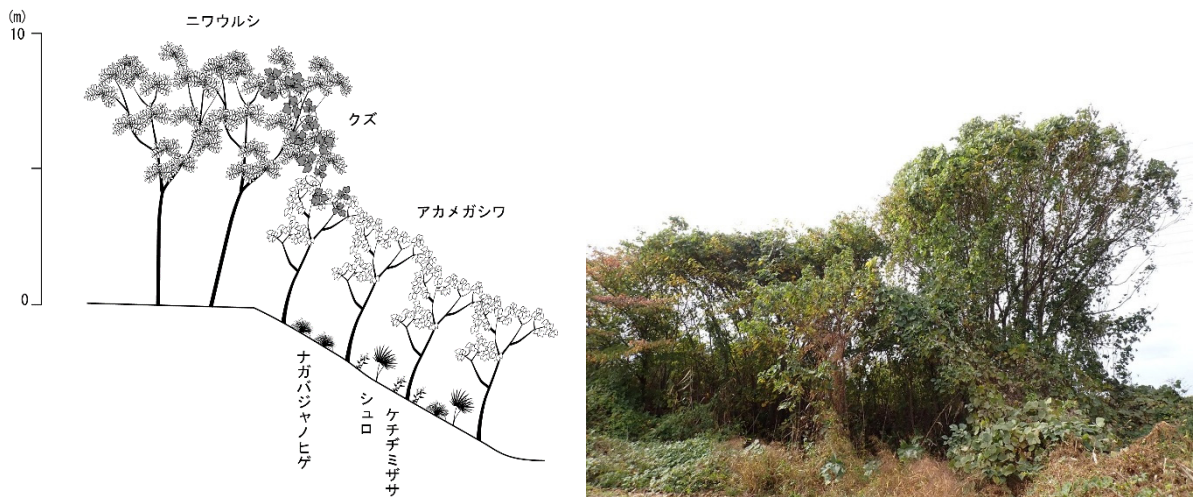


図 10.8.1-8 st. 5 の断面模式図 (左) と外観 (右)

7. スギ-ヒノキ植林

調査地点番号：st. 13

群落の相観：高木層にスギもしくはヒノキが優占する植林。

構造・組成：高木層、亜高木層、低木層、草本層の4層からなる。群落高は25m。高木層はスギが優占していたほか、ヒノキやコナラが混じっていた。亜高木層はマダケやモウソウチクが優占していた。低木層は常緑樹のシラカシ、アオキ、ヒサカキ、サカキ等が多く見られた。草本層はヤブコウジ、サネカズラのほか、上層の構成種の実生が見られた。出現種数は22種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外にある伊奈町保存樹林内で小面積ながらまとまって分布していた。



図 10.8.1-9 st. 13 の断面模式図（左）と外観（右）

8. モウソウチク林

調査地点番号：st. 21

群落の相観：モウソウチクが優占する竹林。

構造・組成：高木層、草本層の2層からなる。群落高は15m。高木層はモウソウチクのみ優占していた。草本層はシュロ、シロダモ等の実生が僅かに見られる。出現種数は7種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外にある伊奈町保存樹林周辺でのみ分布していた。優占種のモウソウチクが周辺のコナラ群落、スギ-ヒノキ植林、ケヤキ群落に侵入している様子が見られた。



図 10.8.1-10 st. 21 の断面模式図 (左) と外観 (右)

9. ヨシ群落

調査地点番号：st. 11

群落の相観：ヨシが優占する湿性草地。

構造・組成：第一草本層と第二草本層の2層からなり、群落高は3.5m。上層では高茎の多年草であるヨシが優占し、下層では湿生草本種のみゾソバ、クサヨシ、セリ等が見られた。出現種数は6種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外にある原市沼川沿いの低地にまとまって分布していた。また、対象事業実施区域内の窪地においても小面積ながら帯状に分布していた。



図 10.8.1-11 st. 11 の断面模式図 (左) と外観 (右)

10. オギ群集

調査地点番号：st. 3

群落の相観：オギが優占する湿性草地。

構造・組成：草本層の1層からなり、群落高は2.5m。高茎の多年草であるオギが優占していたほか、つる植物のクズ、カラスウリ、ガガイモ、ヤブカラシ等が多く見られた。出現種数は8種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の遊休農地の一部や原市沼川沿いの低地に分布していた。



図 10.8.1-12 st. 3 の断面模式図（左）と外観（右）

11. ウキヤガラ群落

調査地点番号：st. 1

群落の相観：ウキヤガラが優占する湿性草地。

構造・組成：草本層の1層からなり、群落高は1m。多年草のウキヤガラが優占していたほか、アゼナルコが見られた。出現種数は2種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内の畑と畑の間にある窪地の1箇所にもみ分布していた。



図 10.8.1-13 st. 1 の断面模式図（左）と外観（右）

12. ヤマトミクリ群落

調査地点番号：st. 19、st. 20

群落の相観：ヤマトミクリが優占する湿性草地

構造・組成：草本層の1層からなり、群落高は0.4m。

出現種数は

4～15種であった。

立地・分布：

保全すべき種の保護の観点から、
一部を非公開とした。



図 10.8.1-14 st. 19 の断面模式図（左）と外観（右）

保全すべき種の保護の観点から、
一部を非公開とした。



図 10.8.1-15 st. 20 の断面模式図（左）と外観（右）

13. セイタカアワダチソウ群落

調査地点番号：st. 6

群落の相観：セイタカアワダチソウが優占する乾性草地。

構造・組成：草本層の1層からなり、群落高は2m。多年草のセイタカアワダチソウが優占していたほか、つる植物のヤブマメ、ヘクソカズラが僅かに見られた。出現種数は3種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の遊休農地に小面積分布していた。

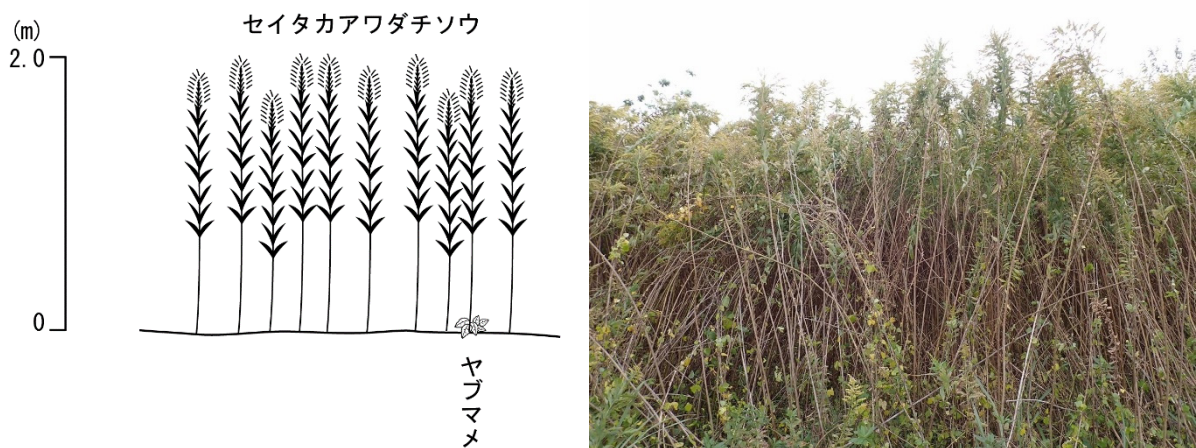


図 10.8.1-16 st. 6 の断面模式図（左）と外観（右）

14. チガヤ群落

調査地点番号：st. 7

群落の相観：チガヤが優占する乾性草地。

構造・組成：草本層の1層からなり、群落高は0.7m。多年草のチガヤが優占していたほか、メヒシバ、エゾノギンギシが見られた。出現種数は3種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外の遊休農地に小面積分布していた。



図 10.8.1-17 st. 7 の断面模式図（左）と外観（右）

15. アズマネザサ群落

調査地点番号：st. 16

群落の相観：アズマネザサが優占する乾性草地。

構造・組成：低木層と草本層の2層からなり、群落高は4.5m。低木層はササ類のアズマネザサのみが優占し、草本層はナガバジャノヒゲ、アカメガシワが見られた。出現種数は3種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外の遊休農地に小面積分布していた。



図 10.8.1-18 st. 16 の断面模式図 (左) と外観 (右)

16. クズ群落

調査地点番号：st. 4、st. 17

群落の相観：クズとカナムグラが優占する乾性草地。

構造・組成：草本層の1層からなり、群落高は0.4~1m。つる植物のクズとカナムグラが優占していたほか、調査範囲内の畑地周辺に多いコセンダングサ、アキノエノコログサ、アメリカフウロが見られた。出現種数は5種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の遊休農地に広く分布していた。



図 10.8.1-19 st. 4 の断面模式図 (左) と外観 (右)

17. オオブタクサ群落

調査地点番号：st. 10

群落の相観：オオブタクサが優占する乾性草地。

構造・組成：第一草本層と第二草本層の2層からなり、群落高は4.5m。上層では高茎の一年草であるオオブタクサが優占していたほか、つる植物のクズ、カナムグラ等が見られた。下層でもクズが多く見られたほか、調査範囲内の畑地周辺に多いヒメオドリコソウ、ヤハズエンドウ、スギナ等が見られた。出現種数は12種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の遊休農地に分布し、特に調査範囲内の南側でまとまって分布していた。

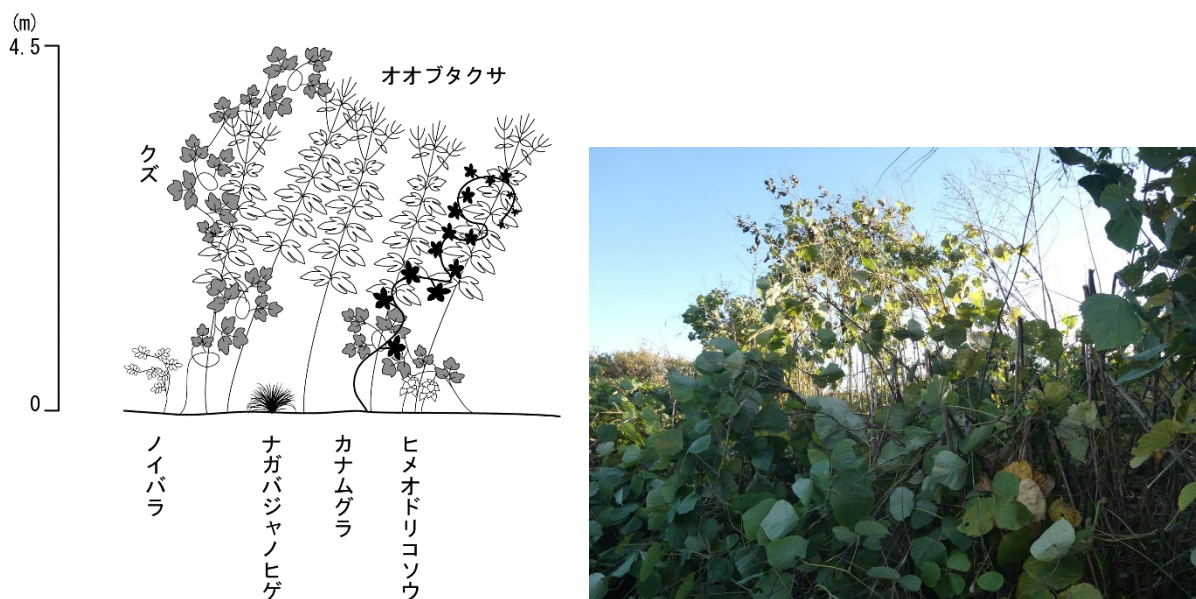


図 10.8.1-20 st. 10 の断面模式図 (左) と外観 (右)

18. コセンダングサ群落

調査地点番号：st. 8

群落の相観：コセンダングサが優占する乾性草地。

構造・組成：草本層 1 層からなり、群落高は 1.8m。一年草のコセンダングサが優占していたほか、クズやカナムグラが多く見られた。出現種数は 6 種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域内外の遊休農地に広く分布していた。

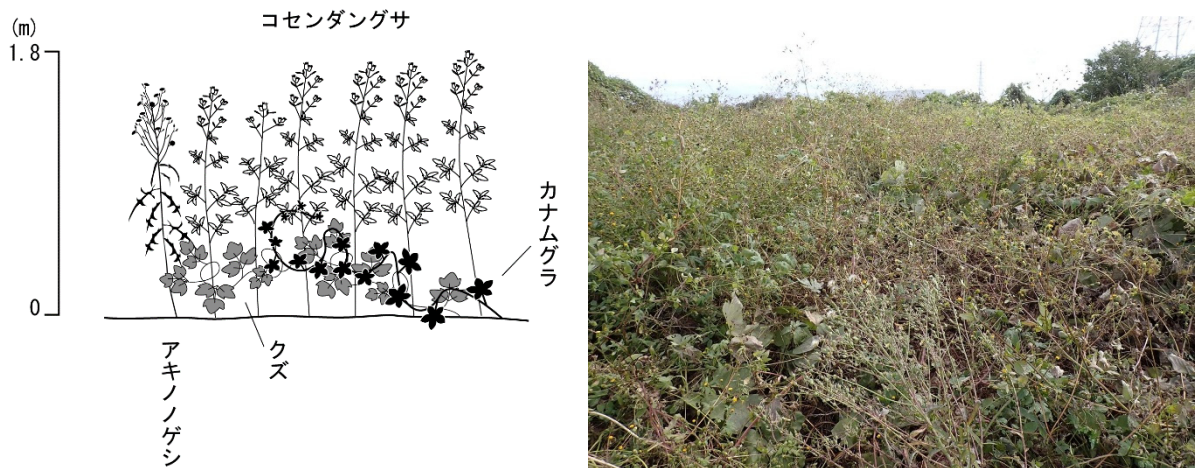


図 10.8.1-21 st. 8 の断面模式図 (左) と外観 (右)

19. ヒメムカシヨモギ群落

調査地点番号：st. 18

群落の相観：ヒメムカシヨモギが優占する乾性草地。

構造・組成：草本層 1 層からなり、群落高は 1.7m。一年草のヒメムカシヨモギとメヒシバが多く見られたほか、外来種のチチコグサモドキ、コセンダングサ、ヒメジョオン等が見られた。出現種数は 6 種であった。

立地・分布：調査範囲内では、対象事業実施区域外の空地の 1 箇所にもみ分布していた。



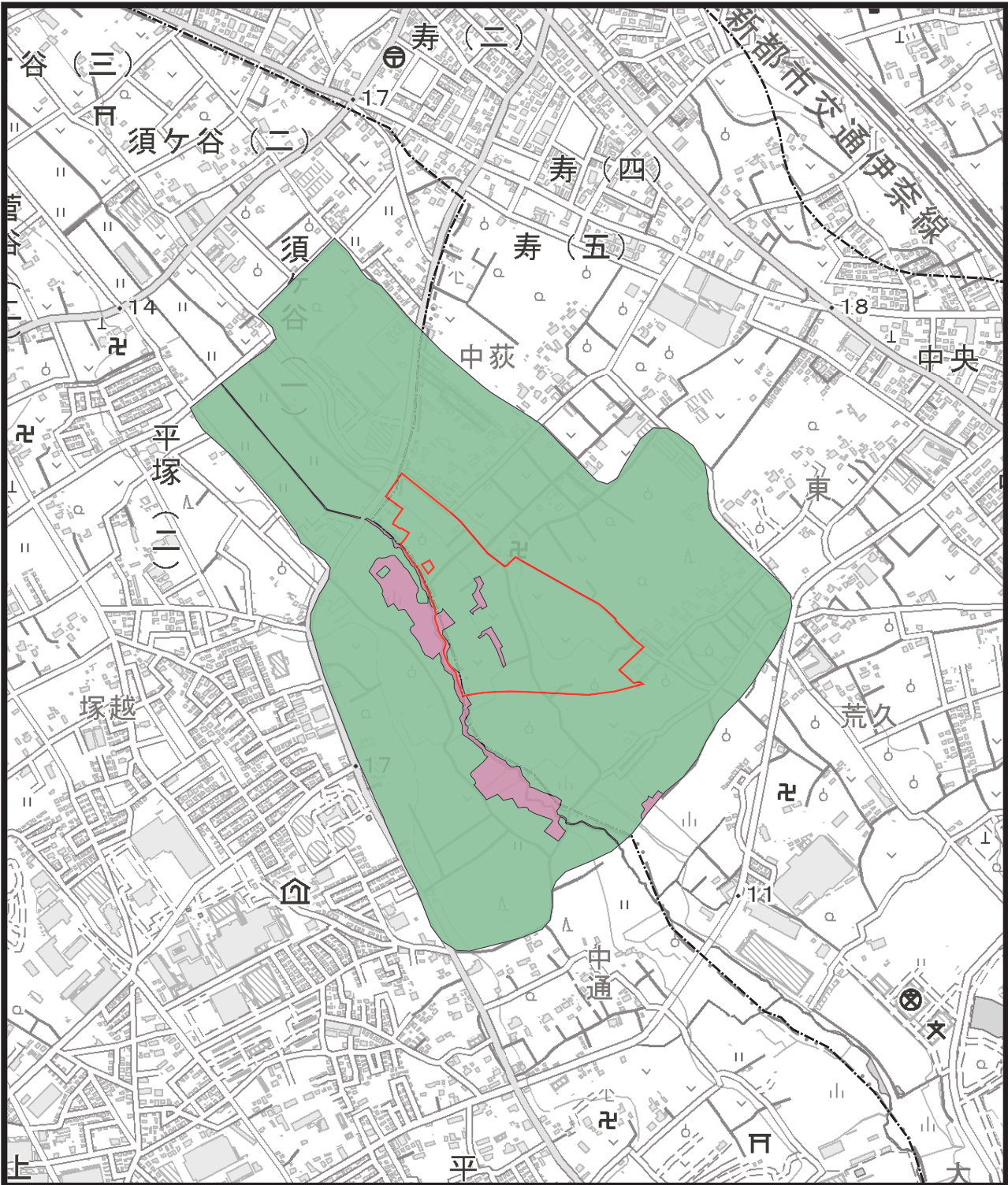
図 10.8.1-22 st. 18 の断面模式図 (左) と外観 (右)

ウ 潜在自然植生



対象事業実施区域及びその周辺において確認された植物群落について、地形地質、土壌等の既存資料を基に、現行の耕作等による人為的影響を一切停止した状態で成立する植物群落を推定し、潜在自然植生図を作成した。潜在自然植生図は図 10.8.1-23 に示すとおりである。


既存資料調査より、対象事業実施区域及びその周辺の平地では主にシラカシ群集が分布し、谷部や低地ではオニスゲ-ハンノキ群集が分布している。調査範囲内では原市沼川周辺でジャヤナギ-アカメヤナギ群集が確認されているが、ハンノキが優占する群落は確認されていない。そのため、オニスゲ-ハンノキ群集が調査範囲内の原市沼川沿いや低地においても成立するか現時点では不明であるため、ジャヤナギ-アカメヤナギ群集及びオニスゲ-ハンノキ群集を含めて潜在自然植生図を作成した。

シラカシ群集は関東地方の洪積台地、丘陵、内陸沖積地に生育する群落で、シラカシ、チャノキ、ナンテン、シュロ等の標徴種（植物社会学的な概念に基づき植物群落を体系化するために抽出された種群、群集及び群集の上位の植生単位（群団、オーダ、クラス）と関連している種）及び区分種（植物社会学的な概念に基づき植物群落を体系化するために抽出された種群、群集より下位の植生単位（亜群集、変群集、亜変群集）と関連している種）により特徴づけられる常緑広葉樹林である。ジャヤナギ-アカメヤナギ群集は関東地方の地下水位の高い後背低地や旧河道沿いに生育するヤナギ林で、標徴種はジャヤナギとマルバヤナギである。オニスゲ-ハンノキ群集は関東地方の丘陵や台地等の湧水の見られる谷戸の谷地、池沼周辺の過湿地に発達するハンノキ林で、ノハナショウブ、ウメモドキ、ニシキギ、カマツカ、オモダカ、コバノカモメヅル、コムラサキ等の標徴種及び区分種により特徴づけられる。




凡例

 : 対象事業実施区域  : 市町界

 : 調査範囲

〈潜在自然植生区分〉

 シラカシ群集

 ジャヤナギ-アカメヤナギ群集及び
オニスゲ-ハンノキ群集



S = 1:10,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.8.1-23 潜在自然植生図

(3) 保全すべき種、群落の分布、生育の状況

① 現地調査

植物の保全すべき種について、表 10.8.1-6 に示す文献を選定基準とした。

表 10.8.1-6 植物の保全すべき種を選定基準

選定基準		選定区分
1	文化財保護法（昭和25年法律第214号）	特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
2	埼玉県文化財保護条例 （昭和30年埼玉県条例46号）	県天：県指定天然記念物
3	上尾市文化財保護条例 （平成18年3月29日） 伊奈町文化財保護条例 （昭和38年10月1日 条例第21号）	市天：市町指定天然記念物
4	絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律（種の保存法） （平成4年6月5日 法律第75号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 第一：特定第一種国内希少野生動植物種 第二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
5	埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例 （平成12年3月24日 条例第11号）	指定：希少野生動植物
6	環境省レッドリスト2025 （環境省、2025年3月公表）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
7	埼玉県レッドデータブック植物編2024 （埼玉県、2024年）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 LP：地域別危惧

ア 保全すべき種

現地調査で確認された植物の保全すべき種は表 10.8.1-7 に示すとおり、合計 9 種であった。種ごとの確認状況を表 10.8.1-8 に、確認位置を図 10.8.1-24 に示す。




表 10.8.1-7 保全すべき種一覧

No.	種名	確認時期				対象事業実施区域		保全すべき種判断基準							
		早春季	春季	夏季	秋季	内	外	1	2	3	4	5	6	7	
1	コウホネ	●	●	●	●		●								NT
2	ウリカワ			●			●								NT
3	エビモ	●	●	●	●		●								NT
4	シュンラン	●	●	●	●		●								NT
5	ヤマトミクリ	●	●	●	●		●							NT	EN
6	ウスゲチョウジタデ				●		●							NT	
7	コイヌガラシ	●	●		●	●								NT	
8	アブノメ			●			●								NT
9	カワヂシャ			●			●							NT	NT
合計	9種	5種	5種	7種	6種	1種	8種	0種	0種	0種	0種	0種	4種	7種	

注：保全すべき種の選定基準については表10.8.1-6参照。

1. 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
2. 「埼玉県文化財保護条例」（昭和30年埼玉県条例46号）
3. 「上尾市文化財保護条例」（平成18年3月29日）、「伊奈町文化財保護条例」（昭和38年10月1日 条例第21号）
4. 「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年6月5日 法律第75号）
5. 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（平成12年3月24日 条例第11号）
6. 「環境省レッドリスト2025」（環境省、2025年3月公表）
7. 「埼玉県レッドデータブック植物編2024」（埼玉県、2024年）

表 10.8.1-8 (1/2) 保全すべき種の確認状況

種名	分布と生態 ^注	現地調査における確認状況
 <p>コウホネ</p>	<p>抽水状態で生育する多年草。比較的水深の浅い河川や水路、池沼に生育する。本種は抽水植物であるが、水深が深いと浮葉形となる。また、流水下ではほぼ沈水葉のみとなり、開花個体も少なくなる。県内では山地、台地、低地で分布が確認されている。</p>	<p>保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。</p>
 <p>ウリカワ</p>	<p>多年生の水田雑草。低地から丘陵地・台地にかけて、水田・休耕田や水田脇の小水路内に生育するが、冬季も水深や底土の湿り気が保たれる場所に限られている。低地では乾田にも生育するが、水域に近い場所や沼の干拓地等、地下水位が高く保たれる立地となっている。県内では丘陵、台地、低地で分布が確認されている。</p>	
 <p>エビモ</p>	<p>沈水状態で生育する多年草。水路、小河川、池沼の止水～緩流水中に生育する。農業用の水路では、冬季も水深や底土の湿り気が保たれる用排水路・排水路に限定される。止水域に生育する個体では、夏期に殖芽をつくり休眠する。県内では丘陵、台地、低地で分布が確認されている。</p>	

注：種の生態や分布については「埼玉県レッドデータブック 2024（埼玉県、2024年）」の記載を参考とした。


表 10.8.1-8 (2/2) 保全すべき種の確認状況

種名	分布と生態 ^注	現地調査における確認状況
 <p>シュンラン</p>	<p>部分的菌従属栄養植物の多年草。やや乾燥した落葉広葉樹の林床に生育し、管理された雑木林は適した生育環境である。県内では山地、低山、丘陵、台地、低地で分布が確認されている。</p>	<p>保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。</p>
 <p>ヤマトミクリ</p>	<p>抽水状態で生育する多年草。沼や小河川に分布する。県内ではミクリよりも生育地が限定されている状態である。県内では丘陵、台地で分布が確認されている。</p>	
 <p>ウスゲチョウジタデ</p>	<p>氾濫原等の低湿地や河川、水田に生育する一年草。2005年版では掲載されていたが、県内では安定的な生育が確認されたことから、2024年版では未掲載となっている。</p>	
 <p>コイヌガラシ</p>	<p>氾濫原等の低湿地や河川、水田に生育する一年草。2005年版では掲載されていたが、県内では安定的な生育が確認されたことから、2024年版では未掲載となっている。</p>	
 <p>アブノメ</p>	<p>一年生の水田雑草。湿地のほかに休耕田や農薬の影響が少ない田に見られる。県内では丘陵、台地、低地で分布が確認されている。</p>	
 <p>カワヂシャ</p>	<p>湿性に生育する一年草。県内では水田、休耕田やそれらの水路、河川敷の低水路など、湿り気の多いところに生育する。県内では低山、丘陵、台地、低地で分布が確認されている。オオカワヂシャとの競合が生じており、両方ある場合は本種の方が少なく、雑種を作る場合もある。</p>	

注：種の生態や分布については「埼玉県レッドデータブック 2024（埼玉県、2024年）」の記載を参考とした。


保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例

 : 対象事業実施区域

 : 調査範囲


 : 市町界


 : 原市沼川


 : 側溝、旧水路、水路


〈確認時期〉

 : 早春季

 : 春季

 : 夏季

 : 秋季

 : 通年で確認



S = 1:10,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。


図10.8.1-24 保全すべき種の確認位置 (植物)

イ 保全すべき群落

現地調査で確認された保全すべき群落は、ヤマトミクリ群落のみであった。群落の確認状況を表 10.8.1-9 に、確認位置を図 10.8.1-24 に示す。

なお、既存資料調査（(4) 生育環境の状況、① 既存資料調査）及び現地調査の結果、調査範囲内におけるウキヤガラ群落のみが改変率 100%となり、影響が生じると予測された。しかし、調査範囲外において生育が確認されていること、希少性が低いと判断されたことから保全すべき群落には選定しないこととした。

表 10.8.1-9 保全すべき群落

群落名	分布や生態	現地調査における確認状況
 ヤマトミクリ群落	多年生の抽水植物群落。ヤマトミクリの国内での分布は、本州（関東以西）、四国、九州である。	保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

注：群落の生態や分布については「日本の水草（文一総合出版発行・角野康郎著、2018年）」の記載を参考とした。

(4) 生育環境の状況

① 既存資料調査

事業実施に伴う現存植生の改変の程度について、現存植生の分布状況と事業計画の重ね合わせにより把握した（表 10.8.1-10 参照）。なお、面積は机上の計算により算出した。

対象事業実施区域（7.50ha）の中では、耕作地（4.91ha）と大部分が遊休農地とされている乾性草地（1.42ha）が全体の約 84.4%を占めている。樹林としては落葉樹林のエノキ群落（0.13ha）と先駆性二次林（0.70ha）が分布するが、これらを合わせても対象事業実施区域全体の約 11.1%と少ない。これらと同様の環境は対象事業実施区域外にも広く分布している。

また、事業実施に伴う植生自然度の改変の程度について、現存植生図と事業計画の重ね合わせにより把握した。植生自然度については表 10.8.1-11 に、事業実施に伴う植生自然度の改変の程度については表 10.8.1-12 及び図 10.8.1-25 に示すとおりである。なお、ヤマトミクリ群落については群落構成種の希少性や群落の規模及び地域性を考慮し、植生自然度「9」とした。

対象事業実施区域内（7.50ha）の植生自然度について、植生自然度 2 の占める割合が最も高く（3.80ha）、次いで植生自然度 3（1.48ha）、植生自然度 5（1.05ha）、と続き、それ以下は 1ha 未満であった。調査範囲全域からみた改変率では、調査範囲内における植生自然度が最も高い植生自然度 8 では、ウキヤガラ群落が 100%、次いでオギ群集が 28.6%、次いでヨシ群落が 15.4%の順で高く、それ以下のシラカシ群集、ケヤキ群落、ジャヤナギ-アカメヤナギ群集は 1%未満であった。

表 10.8.1-10 事業実施に伴う現存植生の変化

区分	植生・土地利用等	面積 (ha)		面積比率 (%)		変更率 (%)
		調査範囲全域	対象事業実施区域	調査範囲全域	対象事業実施区域	
常緑広葉樹林	1: シラカン群集	0.51	—	0.86	—	0.00
	常緑広葉樹林 小計	0.51	0.00	0.86	0.00	0.00
落葉広葉樹林	2: ケヤキ群落	0.11	—	0.18	—	0.00
	3: エノキ群落	0.30	0.13	0.50	1.73	43.33
	4: コナラ群落	1.31	—	2.20	—	0.00
	5: ジャヤナギ-アカメヤナギ群集	0.33	—	0.55	—	0.00
	6: 先駆性二次林	1.61	0.70	2.70	9.33	43.48
	落葉広葉樹林 小計	3.66	0.83	6.14	11.07	22.68
植林	7: スギ-ヒノキ植林	0.28	—	0.47	—	0.00
	8: モウソウチク林	1.24	—	2.08	—	0.00
	植林 小計	1.52	0.00	2.55	0.00	0.00
湿性草地	9: ヨシ群落	1.30	0.20	2.18	2.67	15.38
	10: オギ群集	0.21	0.06	0.35	0.80	28.57
	11: ウキヤガラ群落	0.01	0.01	0.02	0.13	100.00
	12: ヤマトミクリ群落	0.32	—	0.54	—	0.00
	湿性草地 小計	1.84	0.27	3.09	3.60	14.67
乾性草地	13: セイタカアワダチソウ群落	0.16	0.07	0.27	0.93	43.75
	14: チガヤ群落	0.41	—	0.69	—	0.00
	15: アズマネザサ群落	0.04	—	0.07	—	0.00
	16: クズ群落	2.84	0.98	4.76	13.07	34.51
	17: オオブタクサ群落	2.40	0.18	4.03	2.40	7.50
	18: コセンダングサ群落	1.57	0.19	2.63	2.53	12.10
	19: ヒメムカシヨモギ群落	0.81	—	1.36	—	0.00
	乾性草地 小計	8.23	1.42	13.81	18.93	17.25
耕作地	20: 畑地	17.01	3.43	28.54	45.73	20.16
	21: 水田	2.60	—	4.36	—	0.00
	22: 果樹園	5.55	1.37	9.31	18.27	24.68
	23: 樹園地	0.19	—	0.32	—	0.00
	24: 植栽樹林	0.76	0.11	1.27	1.47	14.47
	耕作地 小計	26.11	4.91	43.80	65.47	18.81
人工地	25: 人工裸地	0.70	—	1.17	—	0.00
	26: 人工構造物	16.92	0.07	28.38	0.93	0.41
	人工地 小計	17.62	0.07	29.56	0.93	0.40
水路	27: 開放水面	0.12	—	0.20	—	0.00
	水路 小計	0.12	0.00	0.20	0.00	0.00
	合計	59.61	7.50	100.00	100.00	12.58

注: 1) 対象事業実施区域の全域が改変されるものとした。

2) 面積は、机上の計算により算出した値であり、測量調査による値と異なる。

表 10.8.1-11 植生自然度

植生自然度	区分基準
9	自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区
8	代償植生であっても特に自然植生に近い地区
7	一般に二次林と呼ばれている代償植生地区
6	植林地、アカメガシワ等の低木林
5	背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原
4	背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落
3	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区
—	開放水面

出典：1/2.5万植生図の新たな植生自然度について（環境省、平成28年）

表 10.8.1-12 事業実施に伴う植生自然度の変化の予測結果

植生自然度	植生・土地利用等	面積 (ha)		面積比率 (%)		改変率 (%)
		調査範囲全域	対象事業実施区域	調査範囲全域	対象事業実施区域	
9	12：ヤマトミクリ群落	0.32	—	0.54	—	0.00
	植生自然度9 合計	0.32	0.00	0.54	0.00	0.00
8	1：シラカシ群集	0.51	—	0.86	—	0.00
	2：ケヤキ群落	0.11	—	0.18	—	0.00
	5：ジャヤナギ-アカメヤナギ群集	0.33	—	0.55	—	0.00
	9：ヨシ群落	1.30	0.20	2.18	2.67	15.38
	10：オギ群集	0.21	0.06	0.35	0.80	28.57
	11：ウキヤガラ群落	0.01	0.01	0.02	0.13	100.00
	植生自然度8 合計	2.47	0.27	4.14	3.60	10.93
7	3：エノキ群落	0.30	0.13	0.50	1.73	43.33
	4：コナラ群落	1.31	—	2.20	—	0.00
	植生自然度7 合計	1.61	0.13	2.70	1.73	8.07
6	6：先駆性二次林	1.61	0.70	2.70	9.33	43.48
	7：スギ-ヒノキ植林	0.28	—	0.47	—	0.00
	植生自然度6 合計	1.89	0.70	3.17	9.33	37.04
5	13：セイタカアワダチソウ群落	0.16	0.07	0.27	0.93	43.75
	15：アズマネザサ群落	0.04	—	0.07	—	0.00
	16：クズ群落	2.84	0.98	4.76	13.07	34.51
	植生自然度5 合計	3.04	1.05	5.10	14.00	34.54
4	14：チガヤ群落	0.41	—	0.69	—	0.00
	植生自然度4 合計	0.41	0.00	0.69	0.00	0.00
3	8：モウソウチク林	1.24	—	2.08	—	0.00
	22：果樹園	5.55	1.37	9.31	18.27	24.68
	23：樹園地	0.19	—	0.32	—	0.00
	24：植栽樹林	0.76	0.11	1.27	1.47	14.47
	植生自然度3 合計	7.74	1.48	12.98	19.74	19.12
2	17：オオブタクサ群落	2.40	0.18	4.03	2.40	7.50
	18：コセンダングサ群落	1.57	0.19	2.63	2.53	12.10
	19：ヒメムカシヨモギ群落	0.81	—	1.36	—	0.00
	20：畑地	17.01	3.43	28.54	45.73	20.16
	21：水田	2.60	—	4.36	—	0.00
	植生自然度2 合計	24.39	3.80	40.92	50.66	15.58
1	25：人工裸地	0.70	—	1.17	—	0.00
	26：人工構造物	16.92	0.07	28.38	0.93	0.41
	植生自然度1 合計	17.62	0.07	29.55	0.93	0.40
—	27：開放水面	0.12	—	0.20	—	0.00
	植生自然度他 合計	0.12	0.00	0.20	0.00	0.00
	合計	59.61	7.50	100.00	100.00	12.58











注：1) 対象事業実施区域の全域が改変されるものとした。

2) 面積は、机上の計算により算出した値であり、測量調査による値と異なる。

保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。

凡例  : 対象事業
実施区域  : 調査範囲  : 市町界

〈自然度区分〉

-  1 市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区
-  2 外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
-  3 竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、
残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
-  4 背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、
放棄畑雑草群落
-  5 背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している
構成種の多い草原
-  6 植林地、アカメガシワ等の低木林
-  7 一般に二次林と呼ばれている代償植生地区
-  8 代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
-  9 自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区
-  - 開放水面



S = 1:10,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.8.2-25 植生自然度の分布図

(5) 緑の量

① 既存資料調査

ア 緑被率

調査範囲の緑被面積を現存植生図より計測することにより把握した（表 10.8.1-13 参照）。

緑被としてカウントした群落等は常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、湿性草地、乾性草地、耕作地とした。耕作地の畑地と水田については人為攪乱との結びつきが強いため除外した。

調査範囲内の緑被面積は 22.26ha、緑被率は 37.34%であった。対象事業実施区域内は果樹園や草地の占める割合が多いため緑被率は 53.73%と高い値であった。一方、対象事業実施区域外は畑地や人工構造物の占める割合が多いため緑被率は 34.98%と低い値であった。

表 10.8.1-13 調査範囲における緑被地及び緑被率

区分	植生・土地利用等	調査範囲全域 (ha)	対象事業 実施区域内 (ha)	対象事業 実施区域外 (ha)	
緑被地	1：シラカシ群集	0.51	—	0.51	
	2：ケヤキ群落	0.11	—	0.11	
	3：エノキ群落	0.30	0.13	0.17	
	4：コナラ群落	1.31	—	1.31	
	5：ジャヤナギ-アカメヤナギ群集	0.33	—	0.33	
	6：先駆性二次林	1.61	0.70	0.91	
	7：スギ-ヒノキ植林	0.28	—	0.28	
	8：モウソウチク林	1.24	—	1.24	
	9：ヨシ群落	1.30	0.20	1.10	
	10：オギ群集	0.21	0.06	0.15	
	11：ウキヤガラ群落	0.01	0.01	0.00	
	12：ヤマトミクリ群落	0.32	—	0.32	
	13：セイタカアワダチソウ群落	0.16	0.07	0.09	
	14：チガヤ群落	0.41	—	0.41	
	15：アズマネザサ群落	0.04	—	0.04	
	16：クズ群落	2.84	0.98	1.86	
	17：オオブタクサ群落	2.40	0.18	2.22	
	18：コセンダングサ群落	1.57	0.19	1.38	
	19：ヒメムカシヨモギ群落	0.81	—	0.81	
	22：果樹園	5.55	1.37	4.18	
	23：樹園地	0.19	—	0.19	
	24：植栽樹林	0.76	0.11	0.65	
	その他	20：畑地	17.01	3.43	13.58
		21：水田	2.60	—	2.60
25：人工裸地		0.70	—	0.70	
26：人工構造物		16.92	0.07	16.85	
27：開放水面		0.12	—	0.12	
	合計	59.61	7.50	52.11	
	緑の量(ha)	22.26	4.03	18.23	
	緑被率(%)	37.34	53.73	34.98	

注：面積は、机上の計算により算出した値であり、測量調査による値と異なる。

イ 緑視率

「10. 景観」に示す調査地点の中で、施設の存在による影響が見られると想定される L-3 及び L-5（「10. 景観」（p. 10. 10-3）参照）について、緑視率を算出した。なお、緑視率は対象事業実施区域を望む眺望景観に占める緑の割合とした。

調査地点の概要、眺望景観及び緑視率を表 10. 8. 1-14 に示す。

表 10. 8. 1-14 調査地点ごとの緑視率

No.	調査地点の概要	眺望景観	緑視率 (%)
L-3	対象事業実施区域の北側に隣接する民家付近であり、地域住民の生活の場である。		63.47
L-5	対象事業実施区域の南側に隣接する民家付近あり、地域住民の生活の場となっている。調査地点は当該地域の最南端である。		66.83

(6) その他の関連事項

① 広域的な植物相及び植物分布の状況

広域的な植物相及び植生分布の状況は、「第3章 地域特性の把握、2 自然的状況、2.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況、2) 植生 (p. 3-103 参照)」に示すとおりである。

② 過去の植物の変遷

「埼玉県レッドデータブック植物編 2024」(埼玉県、2024年)によると、対象事業実施区域が位置する埼玉県東部の低地帯における植物相及び植物群落の変遷の概要は以下のとおりである。

維管束植物について、台地・低地帯における減少要因として、農薬汚染、河川改修等が挙げられる。台地・低地帯は池沼や河川、水田など水とのかかわりが重要な地域であるが、農薬の使用による水質悪化などで、多くの水田植物が見られなくなっている。また、多くの河川敷は重要な絶滅危惧種の生育場所であるにもかかわらず、依然として調節池や堤防、公園化等の工事が進められており、希少植物の生育場所は狭められている。

植物群落について、低地は暖温帯域に区分されており、質的に多様な森林群落が認められていたが、現在、森林の多くは社寺林を除き消滅している。森林群落の代償植生以外にも、県内には古くから人が暮らし、生業とともに形成されてきた多様な植生が成立しており、過去には貧栄養湿原や低層湿原・挺水植物群落等も見られたが、農薬の影響や管理放棄等により失われた群落もある。また、東部の低地は農用に管理された草地在が広く成立し、ススキやチガヤなどの二次草地在が広く成立したと考えられるが、現在はほとんど残されていない。さらに近年では、環境の変化や遷移の進行、外来種による影響、野生動物の食害等により、面的には群落として残っていても種構成等に大きな変化が生じている場所が多くある。

③ 地域住民その他の人との関わりの状況

対象事業実施区域及びその周辺は、大部分が水田や畑地等の耕作地であり、一部に樹林地が点在する人為的に創出・管理されてきた自然環境が広がる。耕作地では耕起や除草等による周期性を持った管理に対応した草本も確認されており、その中にはコイヌガラシ等の保全すべき種も含まれていた。

原市沼川の下流に位置する原市沼では、古代蓮が復元され、現在は多くの人々が訪れる観光資源として地域住民に保全管理されている。また、対象事業実施区域周辺では、散歩等を行う人が見られた。

8.2 予測

1) 工事中、存在・供用時

(1) 予測内容

保全すべき種の生息地の改変の程度及びその他の生息環境への影響の程度を予測した。

(2) 予測方法等

① 予測方法

調査結果と対象事業の計画の状況から、保全すべき種の生育環境や群落の生育地が変化する程度を把握し、事例の引用または解析により予測した。

② 予測地域及び予測地点

予測地点は、「植物現地調査地点」と同様とした（図 10.8.1-1 参照）。

③ 予測時期等

工事中の予測時期は、造成等により濁水が発生すると想定される時期（降雨時）とした。

存在・供用時の予測時期は、施設の稼働が定常の状態となり、植物の生育状況が安定し、環境保全措置の効果が確認できる時期。

(3) 予測結果

① 保全すべき種及び群落の生育地の変化の程度

本事業で想定される影響について、直接的な影響と間接的な影響に区分される。

ア 直接的影響：生育環境の消失

（工事中：造成等の工事、存在・供用時：施設の存在）

改変される生育環境は、対象事業実施区域内の畑地、果樹園、乾性草地（セイタカアワダチソウ群落、クズ群落、オオブタクサ群落、コセンダングサ群落）が大部分を占める（表 10.8.1-10 参照）。

このような環境では、定期的な草刈り等による人為的な改変を大きく受けており、生育する植物の自然度は低くなる。しかし、保全すべき種であるコイヌガラシが改変区域内において確認されており、影響は大きいと予測されるため、環境保全措置を講じる必要がある。

施設の存在時には、対象事業実施区域内に周辺の樹林や草地と連続した緑地として、郷土種による植樹、草地を整備し、可能な限り幅を持たせた緑地を保全整備するようにする。保全する緑地が荒廃している場合は伐採や植樹、下草刈りなどの整備を行い、樹種及び階層構造に多様性を持たせることとする。また、保全すべき種であるコイヌガラシについては、敷地内に生育環境を創出・管理を行うことにより、造成等の工事により消失する生育環境を代償できると考えられ、影響は小さいと考えられる。

イ 間接的影響：水質の変化、光環境の変化

(工事中：造成等の工事、存在・供用時：施設の存在)

造成等の工事に伴い発生する濁水は、沈砂池等で滞留させ、自然沈降後の上澄み水を放流することにより濁水の発生を抑制し、浮遊物質量 (SS) 180mg/L 以下として原市沼川に放流する。また、コンクリートにより発生するアルカリ性の濁水は、中和装置により pH5.8～8.6 に調整して放流する。水質の予測結果によれば、河川水質に大きく影響は及ぼさないと予測された(「10.5 水質」(p.10.5-17 参照))。したがって、水系に生育する保全すべき種及び群落の生育環境の変化の程度は小さいと予測される。

また、工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。

施設の存在時には夜間の照明による光環境の変化により、対象事業実施区域及びその周辺に生育する保全すべき種の生育状況に変化が生じる可能性がある。しかし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けることから、植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。

② 保全すべき種及び群落への影響

現地調査の結果、調査範囲内で保全すべき種が合計 9 種、保全すべき群落が合計 1 群落確認された。このうち、対象事業実施区域内に生育する保全すべき種は 1 種であった(表 10.8.2-1 参照)。

保全すべき種及び群落への影響の予測結果を表 10.8.2-2 及び表 10.8.2-3 に示す。

表 10.8.2-1 確認された保全すべき種及び群落

区分	種名・群落名	対象事業実施区域	
		内	外
保全すべき種	コウホネ		● ^注
	ウリカワ		●
	エビモ		● ^注
	シュンラン		●
	ヤマトミクリ		● ^注
	ウスゲチョウジタデ		●
	コイヌガラシ	●	
	アブノメ		●
	カワヂシャ		●
保全すべき群落	ヤマトミクリ群落		● ^注
合計種数・群落数		1 種	8 種 1 群落

注：

表 10.8.2-2 保全すべき種及び群落への影響の程度

種名・群落名	影響の程度		
	工事中	存在・供用時	
コウホネ	小	無	小
ウリカワ	無	無	無
エビモ	小	無	小
シュンラン	無	無	無
ヤマトミクリ	小	無	小
ウスゲチョウジタデ	無	無	無
コイヌガラシ	大	大	大
アブノメ	無	無	無
カワヂシャ	無	無	無
ヤマトミクリ群落	小	無	小

注：影響の度合いについては、以下の4段階で示した。

「大」＝影響が大きく保全対策が必要である。

「中」＝影響が生じると予測され、保全対策を講じることが望ましい。

「小」＝影響が生じる可能性がある。

「無」＝影響は無い、またはほとんど無い。

表 10.8.2-3 (1/3) 保全すべき種及び群落に対する影響の予測結果

種名・群落名	対象事業実施区域		現地調査における確認状況	影響の予測結果	影響の程度
	内	外			
コウホネ		●	保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。	<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種の生育が確認されたのは対象事業実施区域外[]であり、本事業による生育環境の直接改変等を行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い発生した濁水は、原市沼川へ放流する計画であ[]る。しかし、濁水は沈砂池等において濁りを低減させた後、放流することから本種への影響は小さいと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	小
ウリカワ		●		<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種が確認されたのは対象事業実施区域外[]であり、本事業による生育環境の直接改変等を行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い濁水が発生すると予測されるが、本種への影響は無いと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	無
エビモ		●		<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種の生育が確認されたのは対象事業実施区域外[]であり、本事業による生育環境の直接改変等を行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い発生した濁水は、原市沼川へ放流する計画であ[]る。しかし、濁水は沈砂池等において濁りを低減させた後、放流することから本種への影響は小さいと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	小
シュンラン		●		<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種が確認されたのは対象事業実施区域外[]であり、本事業による生育環境の直接改変等を行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い濁水が発生すると予測されるが、本種への影響は無いと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	無

注：影響の度合いについては、以下の4段階で示した。

「大」＝影響が大きく保全対策が必須である。

「小」＝影響は生じる可能性がある。

「中」＝影響が生じると予測され、保全対策を講じることが望ましい。

「無」＝影響は無い、またはほとんど無い。

表 10.8.2-3 (2/3) 保全すべき種及び群落に対する影響の予測結果

種名・群落名	対象事業実施区域		現地調査における確認状況	影響の予測結果	影響の程度
	内	外			
ヤマトミクリ		●	保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。	<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種の生育が確認されたのは対象事業実施区域外であり、本事業による生育環境の直接改変等は行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い発生した濁水は、原市沼川へ放流する計画である。しかし、濁水は沈砂池等において濁りを低減させた後、放流することから本種への影響は小さいと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	小
コイヌガラシ	●			<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種の生育が確認されたのは対象事業実施区域内であり、本事業による生育環境の改変が行われるため影響は大きいと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い濁水が発生すると予測されるが、本種への影響は無いと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	大
アブノメ		●		<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種が確認されたのは対象事業実施区域外であり、本事業による生育環境の直接改変等は行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い濁水が発生すると予測されるが、本種への影響は無いと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	無
カワヂシャ		●		<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種が確認されたのは対象事業実施区域外であり、本事業による生育環境の直接改変等は行われないことから本種への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い濁水が発生すると予測されるが、本種への影響は無いと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本種の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	無

注：影響の度合いについては、以下の4段階で示した。

「大」＝影響が大きく保全対策が必須である。

「小」＝影響は生じる可能性がある。

「中」＝影響が生じると予測され、保全対策を講じることが望ましい。

「無」＝影響は無い、またはほとんど無い。

表 10.8.2-3 (3/3) 保全すべき種及び群落に対する影響の予測結果

種名・群落名	対象事業実施区域		現地調査における確認状況	影響の予測結果	影響の程度
	内	外			
ヤマトミクリ群落		●	保全すべき種の保護の観点から、一部を非公開とした。	<p>【直接的影響】</p> <p>○工事中、存在・供用時 本種の生育が確認されたのは対象事業実施区域外であり、本事業による生育環境の直接改変等を行われないことから本群落への影響は無いと予測される。</p> <p>【間接的影響】</p> <p>○工事中 造成等の工事に伴い発生した濁水は、原市沼川へ放流する計画である。しかし、濁水は沈砂池等において濁りを低減させた後、放流することから本群落への影響は小さいと予測される。 工事中は照明の使用を極力減らすことから、光環境の変化による植物の生育状況への影響はほとんど無いと予測される。</p> <p>○存在・供用時 施設の存在により夜間の照明による光環境の変化が考えられるが、照明の使用を極力減らし、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、本群落の生育への影響はほとんど無いと予測される。</p>	小

注：影響の度合いについては、以下の4段階で示した。

「大」＝影響が大きく保全対策が必須である。

「中」＝影響が生じると予測され、保全対策を講じることが望ましい。

「小」＝影響は生じる可能性がある。

「無」＝影響は無い、またはほとんど無い。

8.3 評価

1) 評価の手法

評価は、植物の保全すべき種への影響が事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されているものであるか否かについて見解を明らかにし、かつ、国、県等による環境の保全の観点からの施策によって示されている基準又は目標が示されている場合は、この基準又は目標と予測結果との整合性について検討した。

環境保全目標は、「植物への影響を最大限回避、低減し、保全する。」を前提とし、表 10.8.3-1 に示す基準と比較した。

表 10.8.3-1 植物に係る環境保全目標

項目	整合を図るべき基準等
「埼玉県環境基本計画（第5次） （令和4年度～令和8年度）」 （令和4年4月、埼玉県）	【長期的な目標】 ・安心、安全な生活環境と生物の多様性が確保された自然共生社会づくり 【施策の方向】 ・身近な緑の保全・管理 ・身近な緑の創出と保全・創出基盤づくり ・森林の整備・保全 ・「埼玉県生物多様性保全戦略」の推進 ・希少野生動植物などの保護の推進
「第5次埼玉県国土利用計画」 （令和5年10月、埼玉県）	【県土利用の基本方針】 ・計画的かつ有効な県土利用の促進 ・安心・安全を実現する県土利用の推進 ・人と自然が調和し、持続可能な県土利用の促進
「埼玉県5か年計画（令和4年度～令和8年度） ～日本一暮らしやすい埼玉へ～」 （令和4年3月、埼玉県）	【豊かな自然と共生する社会の実現に向けた方針】 ・みどりの保全と創出 ・恵み豊かな川との共生 ・生物多様性の保全
「第3次埼玉県広域緑地計画 （令和4年度～令和8年度）」 （令和4年4月、埼玉県）	【緑の将来像】 ・多様で豊かな緑と共生する『埼玉』 【地域別の緑の方向性】 ・台地：点在する樹林地が適切に保全され、農地や市街地と調和した緑豊かな地域づくりが進められるような緑を目指す。 ・低地：広大な水田を代表とする農地を基調として、河川・水路、屋敷林や社寺林等が一体となった田園景観のような緑を目指す。 【基本方針】 ・緑を保全する ・緑を創出する ・緑を活用する
「まちづくり埼玉プラン」 （平成30年3月、埼玉県）	【まちづくりの目標】 ・都市と自然・田園との共生 川を活用することにより「交流の場」や「憩いの場」を創る。 市民農園、観光農園など田畑・里山を活用しつつ、良好な田園・自然を保全する。 【自然的環境の整備・保全の基本方向】 ・みどりの恩恵を享受できるよう、川や田園、街路樹などによる生態系に配慮したみどりのネットワークを形成する。
「埼玉県生物多様性保全戦略 （令和6年度～令和13年度）」 （令和7年3月、埼玉県）	【ネイチャーポジティブの実現に向けて】 ・生態系の健全性の回復 ・生物多様性保全に係る取組を支える基盤整備 ・多面的機能を発揮する森林の豊かな環境を守り、育てる ・里地里山の多様な生態系ネットワークを形成する ・多様な水域が有機的に結びついた生態系ネットワークを形成する ・人と自然が共生する都市をつくる
「第2次上尾市緑の基本計画」 （令和3年3月）	【長期的な目標】 ・安心、安全な生活環境と生物の多様性が確保された自然共生社会づくり 【施策の方向】 ・身近な緑の保全・管理 ・身近な緑の創出と保全・創出基盤づくり ・森林の整備・保全 ・「埼玉県生物多様性保全戦略」の推進 ・希少野生動植物などの保護の推進
「第3次伊奈町環境基本計画 環境を一人一人が考え未来へつなぐいな」 （令和7年3月）	【基本目標】 ・豊かな自然と共生するまち 【施策】 ・自然緑地・公園等の保全と活用 ・農地の保全と活用 ・生物多様性の保全

2) 環境の保全のための措置

植物の保全すべき種への影響を低減させるため、環境の保全のための措置として以下の事項を実施する。

(1) 工事中

表 10.8.3-2 環境の保全のための措置（工事中）

影響要因	項目	措置の内容	措置の区分		
			予測条件として設定	低減に係る保全措置	その他の保全措置
造成等の工事	濁水対策	・降雨時に発生する濁水は沈砂池で滞留させ、自然沈降後の上澄み水を放流するものとし、浮遊物質量(SS) 180mg/L以下として放流する。	○	○	
		・沈砂池の堆砂は、定期的に除去して、沈砂池の機能を確保する。		○	
		・造成範囲外の雨水等が沈砂池に流入することがないように、側溝や土嚢などを設置して、造成範囲内の雨水と分離する。		○	
		・工事にあたっては、沈砂池を可能な限りスケールアップすることにより、濁水のSS濃度を低下させ原市沼川への影響を低減させる。		○	
		・沈砂池を可能な限り大規模なものとし、予測条件で設定した降雨強度以上の場合であっても対応できるよう配慮する。		○	
		・コンクリートによる地下構造物工事施工時等で発生するアルカリ性の排水は、中和装置によりpHは5.8～8.6に調整して放流する。		○	
	土地利用の制限	・改変区域以外の範囲での土地利用や不必要な草刈り、生育する樹木の伐採等の環境改変を行わないよう、現場作業員に徹底する。		○	
	植物保護対策	・保全すべき種コイヌガラシについて、改変により生育地が消失することから、以下に示す2つの移植方法を実施する。 1. 工事着工前に移植適地の選定・移植作業の実施が可能な場合、その移植適地への種子移植を行う。 2. 移植適地が決まらないまま工事着工される場合、プランター等に本種の生育地の表土、株及び種子を播種し生長させ、移植先が決まるまで、生育を維持することが望ましい。	○	○	
		・供用後の湿地環境へ移植を行う種（ウキヤガラを想定）について、造成工事前に株、種子及び表土を採取し、プランターにて生長させ、生育を維持する。		○	
		・工事中は照明の使用を極力減らし、照明による光環境の変化を低減するよう務める。		○	

(2) 存在・供用時

表 10.8.3-3 環境の保全のための措置（存在・供用時）

影響要因	項目	措置の内容	措置の区分		
			予測条件として設定	低減に係る保全措置	その他の保全措置
施設の存在	早期の緑化	・工事後の造成地や遊休地については、可能な限り早期の緑化を行い、動物の生息環境を創出する。		○	
	緑化整備	・対象事業実施区域内に周辺の樹林や草地と連続した緑地として、郷土種による植樹、草地を整備し、可能な限り幅を持たせた緑地を保全整備するようにする。		○	
		・地域遺伝子の保全のため、外国産や遠隔地の苗木や種子を使用せず、埼玉県内産の苗木や種子を用いるよう努める。		○	
		・保全する緑地が荒廃している場合は伐採や植樹、下草刈りなどの整備を行い、樹種及び階層構造に多様性を持たせる。		○	
	植物保護対策	・本事業によって生育地が消失するコイヌガラシ等について、敷地内の緑地に移植を行うことで生育環境の代償措置を講じる。湿地環境の創出の詳細については動物の章に示す。	○	○	
・夜間は照明の使用を極力減らし、照明による光環境の変化を低減するよう務める。		○	○		

3) 評価の結果

(1) 工事中、存在・供用時

① 直接的影響（工事中：造成等の工事、存在・供用時：施設の存在）

ア 回避・低減の観点

本事業の実施に伴う、生育環境の改変により、影響を受ける種としてコイヌガラシがあげられる。しかし、環境保全措置として生育地の表土、株、種子をプランター等で保全し、改変区域外の範囲への移植、または供用後に敷地内の緑地への移植を行う。さらに、改変区域外の範囲での土地利用や不必要な草刈り、生育する樹木の伐採等の環境改変を行わないように現場作業員に徹底することから植物への影響は低減される。

イ 基準、目標等との整合の観点

本事業の実施に伴う、生育環境の改変により、影響を受ける種としてコイヌガラシがあげられる。しかし、環境保全措置として生育地の表土、株、種子をプランター等で保全し、改変区域外の範囲への移植、または供用後に敷地内の緑地への移植を行う。さらに、改変区域外の範囲での土地利用や不必要な草刈り、生育する樹木の伐採等の環境改変を行わないように現場作業員に徹底する等の環境保全措置を講じる。よって、環境に係る基準又は目標との整合が図られているものと評価する。

② 間接的影響（工事中：造成等の工事、存在・供用時：施設の存在）

ア 回避・低減の観点

造成等の工事に伴い発生する濁水や工事中及び存在・供用時における夜間の光環境の変化等により、対象事業実施区域及びその周辺に生育する保全すべき種及び群落の生育環境、生育状況に影響が生じる可能性があるとして予測された。しかし、環境保全措置として沈砂池の設置、施設の照明の使用を極力減らすことから、植物への影響は低減される。

イ 基準、目標等との整合の観点

造成等の工事に伴い発生する濁水や工事中及び存在・供用時における夜間の光環境の変化等により、対象事業実施区域及びその周辺に生育する保全すべき種及び群落の生育環境、生育状況に影響が生じる可能性があるとして予測された。しかし、沈砂池の設置、施設の照明の使用を極力減らす等の環境保全措置を実施する。よって、環境に係る基準又は目標との整合が図られているものと評価する。